



みどりの風

平成30年10月号 在籍児童数475名

学校教育目標

- 自ら考えのびる子
- 思いやりのある子
- 進んで体をきたえる子

「思いやりのある子」を育てる

校長 大島 薫

澄み切った青空に浮かぶいわし雲に、秋の深まりを感じる季節となりました。

過日行われた秋季大運動会は雨で日曜日に延期になりましたが、保護者、地域の皆様のご支援のおかげで、心に残る熱い一日となりました。ありがとうございます。10月は13日(土)の「篠っこまつり」で保護者の皆様、PTA 役員の皆様、おやじの会の皆様、社会福祉協議会篠津支部、更生保護女性会、篠津総合クラブの皆様方にご協力いただき実施すべく、準備を進めております。よろしく申し上げます。

行事に限らずあらゆる場面で篠津小の子どもたちは、日頃から保護者や地域の皆様の「思いやり」に育まれていることをひしひしと感じます。

「思いやり」というと、埼玉県にゆかりのある詩人、宮澤章二の詩「行為の意味」を思い出します。

行為の意味

宮澤 章二

・・・あなたの<ところ>はどんな形ですか
と人に聞かれても答えようがない
自分にも他人にも<ところ>は見えない
けれど ほんとうに見えないのであろうか

確かに<ところ>はだれにも見えない
けれど<ところづかい>は見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の<思い>は見えない
けれど<思いやり>はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為だから

あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
<心>も<思い>も 初めて美しく生きる
・・・それは 人が人として生きることだ

東日本大震災のあと、連日テレビでこの詩の抜粋が放送されましたので、ご記憶にある方もおられることでしょう。本校の子どもたちは、毎日保護者・地域の皆様のあたたかい<ところづかい>と<おもいやり>に支えられています。学校教育目標のひとつである「思いやりのある子」を育てる上で、保護者や地域の皆様方の姿そのものが子どもたちの大きな指針となっております。

目に見えない<ところ>と<おもい>が道徳的実践力<ところづかい><おもいやり>につながるように、今月も教職員一同、教育活動全体を通して指導にあたってまいります。引き続き皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。